4歳児　実践事例

「自分の思い付いたことをしながら，周りの友達と関わって遊んだ事例」

男児9名　女児7名　計16名

1　クラスの実態

○　年少時は3学級編成であったが，年中進級時に1学級編成となった。学級の人数が増え，思いどおりにならないことが多くなったため，5月頃には，緊張や不安な様子を見せる子どもがいた。6月以降は，自分のやりたい遊びに取り組む中で，少しずつ，様々な友達との関わりが増えてきている。

○　友達と同じ物を身に着けたり，同じように動いたりして，友達と言葉で簡単なやり取りをしながら，群れて遊ぶことに楽しさを感じている子どもたちがいる。一方で，自分のやりたいことに黙々と取り組み，自分の思い通りに遊ぼうとするため，大人である教師を相手として求めて遊ぶ子どももいる。

＜A男の実態＞

・　遊び方へのこだわりが強く，自分のイメージ通りに構成したり，決めた順番通りに遊ぼうとしたりするため，一人でやりたいことに取り組むことが多い。少しずつ，周りの友達の様子に目を向けたり，話していることに耳を傾けたりするようになってきている。声が小さく，周りに思いが伝わりにくい。様々な事象をじっくり観察したり，細やかに気付いたりすることが得意である。

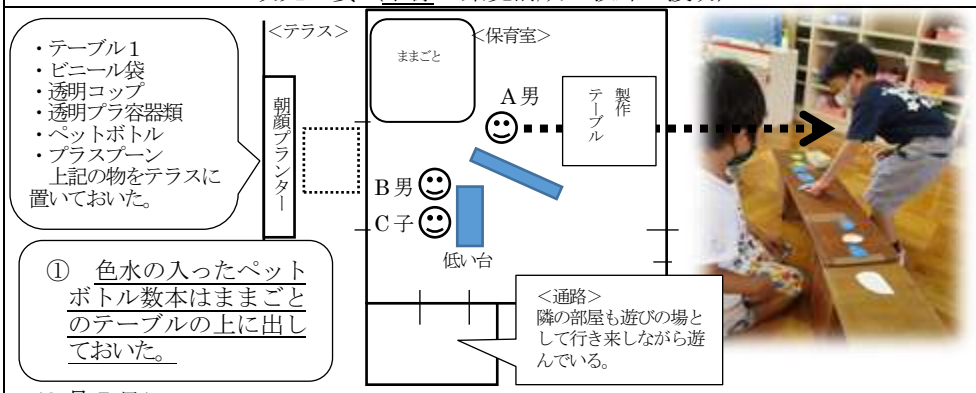
2　教師の願い（A男への願い）

○　自分のやりたいことや好きなことに取り組む中で，友達の様子（言葉や動き，遊び方など）にも目を向けてほしい。また，居合わせた友達や興味・関心が同じ友達と同じ場で遊ぶ楽しさを感じてほしい。

3　保育の実際

＜前日まで＞

テラスの朝顔の花で色水を作って遊んでいた。できた色水をペットボトルに入れ，様々なジュースに見立てて遊びの中で飲んで楽しんでいた。片付けの際には，ペットボトル（20本程度）を全てままごとコーナーの冷蔵庫に片付けていた。

幼児の姿（下線…環境構成と教師の援助）	教師の意図
 ＜9月7日＞ 登園してきたB男が低い台にペットボトルを並べ始めた。「ジュース屋さんです。」と言いながら，冷蔵庫の中のペットボトルも出して並べ始めた。その後に登園してきたC子も一緒に並べ始めた。テラスで色水遊びを始める子どもたちもいた。ペットボトルに入れた色水を教師に見せに来たり，できた色水を「新しいジュース入りました。」とB男やC子のジュース屋に届けたりしていた。A男は黙々と製作テーブルの場で，画用紙に数字を書き，周りを切っていた。その紙を教師に持ってきて「これでジュースが買えます。」と差し出した。②教師が，「これは何ですか。」と尋ねる	①　前日に作った色水のジュースが子どもの目に入りやすいように出しておいた。 ②　A男の発想や表現をまずは受け止めた。A男は周りの友達の遊びの様子を目にとめて，A児なりに関わろうとしていると見取った。 ③　A男の作ったものが他の子どもの遊びとつながり，生かされることをA男に感じてほしい

と，A男は「お金です。」と答えた。「このお金でジュースが買えるのね。」と言うと，B男，C子が「もうジュース屋さん，始まっています。」と言った。③教師が「Aさん，私，喉がカラカラ。このお金持って買いに行きましょう。」と言うと，A男はうなずき，一緒にジュース屋に向かった。教師がお金を渡すと，B男がペットボトルを手渡した。飲むしぐさをして，「おいしい。元気が出たよ。Aさんありがとう。」と言うと，A男は微笑んだ。 教師が他児に呼ばれ，隣の保育室へ行って戻って来ると，A男が積み木の板２枚を床に置き，たくさん作ったお金をその上に並べていた。④教師は，立方体の積み木を３つ持ってきて，「たくさんできたね。大事なお金が踏まれないように，こうするのはどう。」と言って，板の下に積み木を置き，高くした。⑤また，ジュース屋の場に近づけ，保育室の中央になるようにした。その様子を見ていたD子がやって来て，「お金ください。」と言った。A男は「まだ，開いていません。」と言いながら，作ったお金を並べていた。すると，D子が「Dも手伝う。」と言って並べようとすると，A男は「ぼくがやる。」と少し大きな声で言った。⑥教師は，「Dさん，手伝ってくれようとしたのね。ありがとう。Aさん，お手伝いなくても大丈夫かな。」と尋ねると，A男は「大丈夫。」と答えた。D子は座りながらA男が並べる様子を眺めていた。⑦教師が「Dさん，待ってくれているのね。もう少しで終わりそうだね。」とA男にも聞こえるように言うと，D子はうなずいた。 「お金屋さん，始まりました。」とA男が待っていたD子にお金を１枚手渡した。D子は笑顔になってジュース屋へ向かった。⑧続いて教師もA男に「私もください。」と言うと，「いちばん大きいお金です。何個でも買えます。」と言って１枚手渡した。「うれしい。行ってきます。」とD子に続いてジュース屋に行くと，C子が「持ってきたお金はここに入れてください。」とティッシュボックスの空き箱の穴を指さした。D子と教師はそこにお金を入れて，ジュースを受け取った。飲み終えたD子は再び，A男の店に行って並んだ。A男は「また来た。」と言いながも，うれしそうにお金を渡していた。 ⑨学級活動の中で，教師がA男のお金の店にD子と一緒に行ったこと，そのお金でジュースを買ったことなど，教師が楽しんだことを子どもたちに知らせた。 ＜9月8日＞ 登園してきたB男とC子はペットボトルジュースを並べ，ジュース屋の準備を始めた。A男は積み木を運んできて，上に板を置き，作った画用紙のお金やお金に見立てたペットボトルキャップを並べ始めた。その様子に気付いた周りの子どもたちが，A男の店にやってきて，並び始めた。	と願った。 ④　A男の発想を大切にしていることを感じてほしかった。また，居場所となる遊びの場を保障した。 ⑤　A男の様子が周りの子どもから見えるように，また，A男が周りの様子に目が向きやすくなる位置にした。 ⑥　自分が思い付いたことを自分でやりたいというA男の思いを受け入れた。 ⑦　D子がA男の思いを受け入れたことを認め，A男にも待ってくれているD子の存在を感じてほしかった。 ⑧　A男の作ったものを使って遊ぶD子とも楽しさを共有しようとした。 ⑨　A男の思い付きが遊びに生かされ，教師や友達がその遊びを楽しむことができたことを価値付けようと考えた。

4　考察

○　普段は，遊びの中で，教師に対応を求めてくるA男である。教師とのつながりを感じる中で，周りの友達との関わりへと広げていくためには，A男の遊びの場の位置や向きなどが周りの子どもたちと互いに目に入るように配慮することが大切である。

○　本時では，A男は自分の思い付いたことが友達の遊びとつながり，生かされた充実感や，友達や教師が自分の店に来る喜びなどを味わっていたと思われる。今後は，少しずつ，A男が友達の楽しんでいることに興味・関心を向け，A男なりに友達のしていることをまねたり，取り入れたりしながら遊ぶ楽しさも味わってほしいと願う。そのためには，本時のように，A男自身が自分の思い付いたことが生かされる充実感を味わう経験や，友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう経験を重ねていくことが必要であると考える。

＜9月8日＞